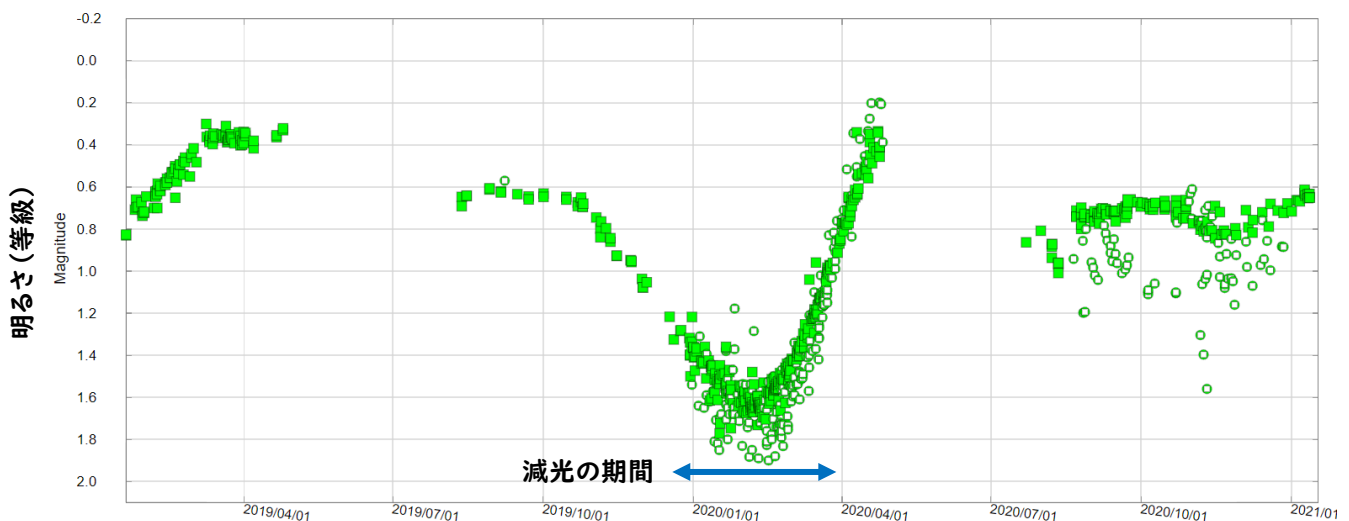




## ベテルギウスのなぞ

オリオン座  $\alpha$  星「ベテルギウス」は2019年10月に突然暗くなり、新聞や雑誌、ネットのニュースなどでも大きく取り上げられました。ベテルギウスはそもそも0.0等から0.4等の間で明るさの変わる変光星です。しかし、今回の減光は2020年の3月までの半年近くの間、さらに0.5等近く暗くなりました。明るいときと比べると、40%くらいの明るさしかありません。これは、肉眼で見ても、「あれ、何かベテルギウスが暗いなあ」と感じるほどです。



AAVSO (アメリカ変光星観測者協会) の公開データベースから作ったベテルギウスの明るさの変化

ベテルギウスは太陽から630光年離れたところにある大きさは太陽の900倍、明るさは太陽の13万倍もある星です。中心部ではヘリウムが核融合反応を起こして、重い元素が作られ、その時に生じる莫大なエネルギーで膨張した姿と考えられています。星全体が不安定で歪んだ状態になっていて、間もなく爆発を起こして超新星になると考えられています。

今回の減光は、爆発のまえぶれか?と思われましたが、そこまでは至っていないようです。不安定になった星の表面から、暗い物質が放出され、それによって星の光が遮られていたという説があります。また、表面の温度が少し下がったことが原因という説や、大きな黒点が出現したのではないかとこの説もあります。本当の理由はまだ分かりません。もし、私たちが生きている間に超新星になる様子が見られれば、私たちはとてもラッキーと言えるでしょう。

2022年1月17日記 (解説員: 田部 一志)